

## 飲み物の容器の表現について

フランス語の場合と言語間に見られる差異

平 塚 徹

### 要 旨

フランス語の“*Il a bu dans un verre.*”のような文の前置詞句はしばしば飲み物の移動の起点を表すとされる。山田 (1998a, 1998b, 2005, 2006) は、この前置詞句が「場所」と「道具」の中間領域に位置するものと主張している。筆者は平塚 (2006) でこの前置詞句が場所補語であることを論じた。“*Où boit-il du whisky ?*”がどの容器で飲んだかを問うのに用いられないのは、疑問詞 *où* が「位置情報」を問うものであるのに対して、前置詞句 *dans un verre* が「配置情報」しか表していないからである。飲み物の容器を使用するには、容器と身体の一部、あるいはストローのような道具を、ある一定の配置にして、飲み物を容器から口の中へと移動させる。飲み物の容器が、言語によって、「場所」・「起点」・「手段」として表現されるのは、容器が果たしている役割を表現するためには、容器を使って飲み物を飲むという複雑な事象の中からある一面を選択しなければならないからである。

キーワード：フランス語, “*boire*”, “*dans*”, 飲み物の容器, 通言語的変異

### 1. はじめに

飲食を表す動詞は、飲食物の容器を表す場所補語をとることがある。

(1) a. *Il a bu ( du vin rouge )*

彼は 飲んだ 部 ワイン 赤い

*dans un verre de cristal.*

の中に 不 グラス の クリスタルガラス

彼はクリスタルガラスのグラスで (赤ワインを) 飲んだ。

b. *Il a mangé ( du riz nature )*

彼は 食べた 部 米 味付けしていない

*dans un bol.*

の中に 不 碗

彼は茶碗で (白飯を) 食べた。

〔「部」は「部分冠詞」, 「不」は「不定冠詞」〕

このような場所補語はしばしば起点を表すものとされてきた (Guillet & Leclère (1992, p. 192), 朝倉 (2002, p. 155), Mel'čuk (2004, pp. 30-31))。しかし, 山田 (1998b) は, これが場所について尋ねる疑問文の答には使われないことなどを根拠に, 純然たる「場所」ではなく,

むしろ、「場所」と「道具」の中間領域に位置するものと結論づけている（山田（1998a），同（2005），同（2006）も参照）。

- (2) – Où boit-il du whisky ?  
 どこ 彼は飲むか 部 ウィスキー  
 -\* Dans un verre. (山田, 1998b, p. 82)  
 の中に 不 グラス

これに対して平塚（2006）では、飲食動詞とともに現れるこのような前置詞句は、「場所」を表していることを主張した。その根拠を簡単にまとめると以下のようになる。

まず、飲食物の容器が行為者によって操作されていないため、「道具」とは考えにくい例がある。

- (3) Le cheval a bu (de l'eau) dans le seau.  
 定 馬 飲んだ 部-水 の中に 定 桶  
 馬は桶の水を飲んだ。  
 〔「定」は「定冠詞」〕

この例文の前置詞 dans は内部を表す場所前置詞であると考えられる。他方、(1a) で前置詞 dans が使われていることについて、(3) の前置詞 dans の場合と異なる理由をわざわざ仮定する必要はない。よって、(1a) の場合も「場所」を表すと考えるべきである。

また、(4) と (5) の共通部分を括りだして、(6) のように boire と mettre を等位接続することが可能である。

- (4) En France, on met le vin dans un verre.  
 で フランス 人は 置く 定 ワイン の中に 不 グラス  
 フランスでは、ワインはグラスに注ぐ。
- (5) En France, on boit le vin dans un verre.  
 飲む  
 フランスでは、ワインはグラスで飲む。
- (6) En France, on met et on boit le vin dans un verre.  
 そして  
 フランスでは、ワインはグラスに注いで飲む。

前置詞句 dans un verre は動詞 mettre に対しても、動詞 boire に対しても、同じ役割を果たしていると考えられるが、この前置詞句は動詞 mettre に対しては場所補語である。よって、動詞 boire が取る dans un verre も場所補語であると結論できる。

しかし、このように考えると、この場所補語を疑問詞 où で尋ねることが難しいことが説明できない。この問題の解決案を、第2節で提案する。また、逆に、飲み物の容器を関係詞 où にしている例が存在しているが、これについては、第3節で議論する。

さて、問題の前置詞句は、しばしば、起点を表すとされてきた。しかし、平塚（2006）では、これが起点でないことを主張した。その論拠として、ボトルなどの口の小さな容器の場合には、前置詞 *dans* が使用できないことをあげた。

- (7) \* Il a bu (du vin) dans la bouteille.  
 彼は 飲んだ 部 ワイン の中に 定 ボトル

この場合には、むしろ、前置詞 *à* が使用される<sup>1)</sup>。

- (8) Il a bu (du vin) à la bouteille.  
 に

彼はボトルから（ワインを）飲んだ。

ワインの移動の起点はボトルの内部であるが、ボトルの内部は前置詞 *dans* で表される。

- (9) Le vin est {dans / \*à} la bouteille.  
 定 ワイン ある の中に に 定 ボトル

ワインはボトルに入っている。

よって、起点を表すのであれば、前置詞 *dans* が使用されてもいいはずだが事実はそうではない<sup>2)</sup>。

ところが、ボトルから飲む場合であっても、それにストローを差し込んで飲む場合には前置詞 *dans* の使用が可能になる。

- (10) Il a bu dans la bouteille { avec une paille / à la paille }.  
 で 不 ストロー で 定 ストロー

彼はボトルにストローを差して飲んだ。

ここから、平塚（2006）では、飲食物の容器を表す名詞句に付いている前置詞は、行為者の身体部位ないしはその延長である道具と容器との関係を示すものであると結論づけた。つまり、前置詞 *dans* が用いられるのは、飲む場合であれば、上唇・口・ストローが容器の内部に入っている場合であり、食べる場合であれば、口・手・フォーク・ナイフ・スプーン・箸などが容器の内部に入っている場合である。

しかし、さまざまな言語を見てみると、飲食物の容器はフランス語のように「場所」として標示されるとは限らず、「起点」として標示される言語も、「道具」として標示される言語も存在する。そこで、第4節では、そもそもこのように多様な標示が存在するのはなぜかという問題を考察する。また、山田が「道具」と「場所」の中間領域と呼んでいるものは結局何であるのかを明確にする。そして、第5節では、個別言語の内部でも飲食物の容器の標示が複数ありうることについて議論する。

## 2. 疑問詞 *où*

平塚（2006）では *boire dans un verre* の前置詞句が場所補語だと主張したが、それでは、

(2) ((11) に再掲) に見られるように、この場所補語を疑問詞 *où* で尋ねることが難しいことが説明できない。

- (11) – *Où boit-il du whisky ?*  
 どこ 彼は飲むか 部 ウィスキー  
 -\* *Dans un verre.* (山田, 1998b, p. 82)  
 の中に 不 グラス

平塚 (2006) では、(11) を容認するネイティブも存在することを述べたが、このような実例は見つからず、実際に *où* が使用されることはほとんど無いと思われる。

この問題を解消するために、本稿では、場所補語の表す情報を「位置情報」と「配置情報」に区別することを提案する。

- (12) 位置情報：位置がどこかという情報  
 (13) 配置情報：位置がどこかということを決定的に、ある別の要素との相対的な配置に関する情報

例えば、X が Y の内部にあるという情報から X の位置がどこかということが決まれば、この情報は位置情報である。しかし、X が Y の内部にあるという情報から必ずしも X の位置が決まるとは限らないのである。この場合、その情報は配置情報だということになる。

次の文を見られたい。

- (14) [En montrant une photo]  
 写真を見せながら  
*Voilà Marie dans sa robe de mariée.*  
 ここに…がいる マリ の中に 彼女の ドレス の 新婦  
 ウェディングドレスを着たマリだよ。

ここで、前置詞 *dans* が使用されているのは、衣服の内部にいるためと考えられる。しかし、通常、マリがある衣服の内部にいるということからは、彼女がどこにいるかは分からない。よって、この前置詞句は、マリがウェディングドレスの内部にいるという「配置情報」を表してはいるが、マリがどこにいるかという「位置情報」は表していない。

他方、疑問詞 *où* については、本来、「位置情報」を尋ねる疑問詞であり、「配置情報」を尋ねるのに *où* は使用しないと考えられる。実際、次のような対話は成り立たない<sup>3)</sup>。

- (15) *Où est Marie ?* -\* *Dans sa robe de mariée.*  
 どこ いる マリ の中に 彼女の ドレス の 新婦

第 1 節で述べたとおり、*boire dans un verre* で前置詞 *dans* が使用されているのは、コップの中身を飲むとき、人間の上唇がコップの中に入っているからである。これは、上唇のコップに対する相対的配置についての情報にはなっているが、このこと自体から上唇の位置が決定されるわけではない。よって、この情報は、「位置情報」ではなく、「配置情報」に過ぎない。その

ために、これを疑問詞 où で尋ねることは難しいと考えられる<sup>4)</sup>。

他方, dans quoi は問題ない。

(16) Dans quoi boivent-ils du thé? (山田, 2005, p. 50)

の中に 何 彼らは飲むか 部 紅茶

彼らは紅茶を何で飲むか。

「配置情報」を尋ねるのに, dans quoi を用いることが可能だからである<sup>5,6)</sup>。

山田が、「道具」と「場所」の中間領域と考えている他の例に対しても、同様に考えることができる。

(17) Il a enveloppé une boîte dans du papier. (山田, 1998b, p. 85)

彼は 包んだ 不 箱 の中に 部 紙

彼は箱を紙で包んだ。

山田 (1998b, p. 87) によると, この dans du papier を疑問詞 où で尋ねることはできない。しかし, ここで前置詞 dans が使用されているのは, 箱が紙の内部にあるという「配置関係」によるのであるが, 通常, このことによって箱がどこにあるかという「位置情報」はもたらされない。よって, 疑問詞 où で尋ねることはできないのである。

これは, 前置詞 dans に限った話ではない。

(18) Il a apporté le petit déjeuner

彼は 持ってきた 定 朝食

sur un plateau. (山田, 1998b, p. 85)

の上に 不 盆

彼は朝食をお盆に載せて持ってきた。

やはり山田 (1998b, p. 87) によると, この文の sur un plateau も疑問詞 où で尋ねることはできない。これも, 前置詞句が朝食のお盆に対する「配置関係」を表しているだけで, 朝食の「位置情報」を表していないために, 疑問詞 où で尋ねることができないのである<sup>7)</sup>。

### 3. 関係詞 où

動詞 boire に対して, 飲み物の容器が関係詞 où になっている実例が存在する。

(19) ce n'est pas plus ignoble que de boire dans ce verre où

指示形容詞 グラス OÙ

a bu je ne sais qui, ce matin, et qu'on a bien moins lavé,

飲んだ 誰か知らない人 指示形容詞 朝

[...] (Maupassant, G. de, *Imprudence*, in *DISCOTEXT 1*)

それは, 朝に知らない人が使った後, ちゃんと洗っていないグラスを使う以上に汚

いことではない。[…]

- (20) Nous appelions ainsi, au régiment, un grand garçon de bonne mine qui est chargé de porter un schall [châle の古い綴り] ou un parapluie au besoin; qui, lorsqu'une femme se lève pour danser, va gravement s'asseoir sur sa chaise, et la suit dans la foule d'un œil mélancolique, en jouant avec son éventail; qui lui donne la main pour sortir de sa loge, et pose avec fierté sur la console voisine

le verre où elle  
定 グラス OÙ 彼女が

vient de boire; (Musset, A. de, *Le Chandelier*, in *DISCOTEXT 1*)

したところだ 飲む

軍隊では、必要な時にはショールや傘を持つ役目の見栄えの良い背の高い男の子をそう呼んでいたんだ。女性がダンスをするために立ち上がると、その席にいかめしく座り、扇をもてあそびながら人混みの中のその女性を物憂げな目で追いかける。女性がボックス席から出るときには、手を貸して、飲んだばかりのグラスを近くの壁際のテーブルに自慢げにおいてあげる。

山田 (2006) によると。次の文の容認可能性はインフォーマントによるようである。

- (21) (\*) Vous pourriez boire dans un verre où elle a bu.  
you could drink in a glass where she drink-PAST

(山田, 2006, p. 98)

しかし、関係代名詞 où の使用がありうるということには変わりはない。また、次の例は問題ない。

- (22) Auge: Pierre ou pièce de bois creusée où  
trough stone or piece of wood hollowed where  
mangent et boivent les chevaux et les bestiaux.  
eat and drink the horses and the domestic animals

(山田, 2006, p. 98)

これらの例は、「位置情報」と「配置情報」という区別では説明できないのではないかと思われるかも知れない。そもそも、「配置情報」は、「配置関係」と「基準物」の組み合わせからなるわけだが、通常、「配置関係」は前置詞で、「基準物」はその後の名詞句で表される。boire dans un verre の dans un verre を dans quoi で尋ねることができるのに対して、où で尋ねるのが難しいのは、dans quoi が (23) に示す構造を有しているのに対して、où がそのような構造を有していないからとも考えることができる。

- (23) [配置関係 [基準物]]

そうすると、飲み物の容器を関係詞 où で表すことはできないはずである。しかし、関係詞の場合には、疑問詞とは事情が異なるのである。なぜなら、関係詞の場合には、先行詞が存在し

ているため、基準物は明示されており、また、多くの場合、基準物である容器が何か分かっているならば、「配置関係」も一般常識から補うことが可能だからである<sup>8)</sup>。よって、飲み物の容器を関係詞 *où* にすることが可能なのである<sup>9)</sup>。

#### 4. 言語間で見られる差異

平塚 (2006) でも指摘したとおり、英語では、フランス語とは異なり、飲食物の容器は「起点」として標示される。

(24) a. boire dans un verre

飲む の中に 不 グラス

b. to drink out of a glass

これは、英語と同じゲルマン語派であるドイツ語やオランダ語でも同じである。

(25) a. aus einem Glas trinken

の中から 不定冠詞 グラス 飲む

(*Dictionnaire français-allemand et allemand-français*, Pairs, Hachette, 1997)

b. uit een glas drinken

の中から 不定冠詞 グラス 飲む

(*Nouveau dictionnaire contrastif des prépositions français-néerlandais*, Bruxelles, De Boeck, 2003)

それ以外でも、例えば、ロシア語がやはり、「起点」として標示する<sup>10)</sup>。

(26) пить из стакана

飲む の中から グラス

(『研究社露和辞典』東京, 研究社, 1988)

Watkins (1976, pp. 27-32) は、インド・ヨーロッパ語族の初期のデータを検証した結果、インド・ヨーロッパ語族では、本来、飲むための容器は基本的に「起点」として標示されていたことを明らかにしている<sup>11)</sup>。

他方、山田 (2006) は、日本語や中国語では、異なった標示が見られると述べている。

(27) a. 彼はコップで紅茶を飲む習慣がある。(山田, 2006, p. 98)

b. 他 有 用 玻璃杯 喝 红茶 的 习惯。(ibid.)

he have with glass drink tea of habit

日本語では「で」が、中国語では「用」が用いられているが、両者とも「道具」を表している。

以上のように、飲み物の容器の標示は、言語によって、「場所」・「起点」・「道具」と変異を示している。これはなぜであろうか。そもそも、飲み物の容器の使用は、(28)のように複合的なものである(この記述は、飲み物の容器の使用の全体像を網羅していないかも知れない

が、ここでの議論ではこれで十分である)。

- (28) 飲み物の容器を「使用」するには、身体部位ないしはその延長である道具を容器に対してある一定の「配置」にして、容器から飲み物を口の中へ「移動」させる。

このように考えると、飲み物の容器の標示が言語ごとに異なっているのは、その使用のどの側面を言語化して表現するかが異なっているためと言える。そもそも容器を「使用」しているのだという側面を選択すれば、「道具」として標示される。これが、日本語や中国語の場合である。また、容器を使用するには、身体部位ないしはその延長である道具を容器に対してある一定の「配置」にするのだという側面を選択すれば、「場所」として標示される。これがフランス語の場合である。そして、飲み物が容器から口の中へと移動していくのだという側面を選択すれば、「起点」として標示される。これが、英語・ドイツ語・ロシア語や、更には初期のインド＝ヨーロッパ語族の場合である。

そうすると、そもそも山田が「道具」と「場所」の中間領域と呼んでいたものは、飲み物の容器のように、当該の参与項が事態において、「使用」と「配置」という両方の側面を有する場合のことではないかと考えられる。そのような場合には、その参与項の担っている複合的な関係を表すには、何らかの側面を選択して言語化せざるをえない。そのため、言語によって、「道具」として標示したり、「場所」として標示したりするのである。実際、「道具」と「場所」の中間領域の例である(17)((29)に再掲)の箱を紙で包む場合も、(18)((30)に再掲)の朝食をお盆で運ぶ場合も、問題となる参与項は、ある「配置」で「使用」されるのである。

- (29) Il a enveloppé une boîte dans du papier. (山田, 1998b, p. 85)

彼は 包んだ 不 箱 の中に 部 紙  
彼は箱を紙で包んだ。

- (30) Il a apporté le petit déjeuner

彼は 持ってきた 定 朝食  
sur un plateau. (山田, 1998b, p. 85)  
の上に 不 盆  
彼は朝食をお盆に載せて持ってきた。

以上のように考えることにより、山田が「道具」と「場所」の中間領域として捉えようとした現象が生ずるメカニズムが明確になったと言える。また、飲み物の容器の場合には、「道具」と「場所」だけでなく、「起点」としての標示も存在することが説明できるのである。

## 5. 個別言語の内部での変異

飲み物の容器をどのように標示するかは、それぞれの個別言語で、容器の使用のどの側面を言語化するかによると述べた。しかし、注意しなければならないのは、各個別言語の内部にお



いても、異なる標示が存在しうることである。そして、複数の標示が可能な場合には、その間に用法の違いが見られるのである。

例えば、山田 (2006) は、飲み物の容器が「道具」として標示される中国語においても、以下のような場合には、「場所」として標示されると述べている。

(31) 小鸟 在 杯子 里 喝 水。  
 little bird at glass in drink water (山田, 2006, p. 98)

(32) 马 在 水槽 里 喝 水。  
 horse at tub in drink water (*ibid.*)

山田によると、次の例のように「道具」を表す「用」を用いると、あたかも馬が手を使って飲んでいるような印象を与える。

(33) \* 马 用 什么 喝 水?  
 horse with what drink water (*ibid.*)

つまり、中国語で飲み物の容器が「道具」として標示されるときも、それは、行為者によって操作される「道具」として捉えられる範囲においてであり、そうでなければ「場所」として標示されるのである。

日本語においても、飲み物の容器の標示は一通りではない。

(34) a. コップで水を飲む  
 b. コップから水を飲む

確かに、(34a) のように「で」が用いられることが多いが、(34b) のように「から」を用いることも十分可能である。しかし、この場合でも、両者の違いは単なる頻度の差ではない。例えば、赤ん坊にコップから飲ませる場合、コップを操作するのが大人であれば、(34a) より(34b) の方が自然であろう。つまり、日本語でも、「道具」らしくなければ、「起点」として標示されるのである。

スペイン語では、「場所」としての標示と「起点」としての標示の両方が見られる。

(35) a. beber en un vaso (Cuervo, p. 862)  
 飲む の中に 不定冠詞 コップ  
 b. beber de un vaso (*ibid.*)  
 から

しかし、この両者にも意味の違いが見られる。Cuervo (1994, p. 862) は、(35a) は飲むのにコップを使うことであり、(35b) はコップの中の飲み物の一部を飲むという意味の違いがあると述べている。また、ボトルから飲む場合には、前置詞 de を用い、前置詞 en は用いることができない。

- (36) a. beber de la botella  
定冠詞 ボトル  
b. \* beber en la botella

この事実は、フランス語において、ボトルから飲む場合には前置詞 *dans* を用いることができないことと同様に説明できるであろう<sup>12)</sup>。

以上のように、個別言語の内部においても、飲み物の容器をどのように標示するかは、場合によって細かい変異が見られるのである。このことは、第4節で述べた各言語で飲み物の容器をどのように標示するかはその使用のどの側面を言語化するかによるということとどのように関係するのであろうか。

そもそも、各個別言語において、典型的な「道具」は「道具」として、典型的な「場所」は「場所」として、典型的な「起点」は「起点」として標示されるであろう<sup>13)</sup>。しかし、容器から飲む場合のように、それらが複合的に組み合わさった事象も存在する。このような事象を表すには、何らかの側面を選択して言語化することになる。つまり、「道具」・「場所」・「起点」のいずれかのカテゴリーがこの領域に拡張しているのである。しかし、容器から飲むといっても、さまざまな場合があり、「道具」・「場所」・「起点」としての側面がどれほどあるかは場合によって異ってくる。そのため、その違いに応じて、個別言語の内部でも、異なる標示が使用されうるのである。

以上のような観点からフランス語の場合を見てみると、以下のようになる。まず、(3) ((37) に再掲) のように道具性が低い場合には、そもそも「道具」として標示される可能性は低い。

- (37) Le cheval a bu (de l'eau) dans le seau.  
定馬 飲んだ 部-水 の中に 定 桶  
馬は桶の水を飲んだ。

そうすると、可能性としては「場所」と「起点」が考えられるが、フランス語は「場所」を選択している。次に、(1a) ((38) に再掲) のように道具性が高い場合には、「道具」として標示される可能性も出てくる。

- (38) Il a bu (du vin rouge)  
彼は 飲んだ 部 ワイン 赤い  
dans un verre de cristal.  
の中に 不 グラス の クリスタルガラス  
彼はクリスタルガラスのグラスで (赤ワインを) 飲んだ。

しかし、フランス語は、この場合でも、「道具」として標示せず、道具性が低い場合と同様に「場所」を選択しているのである<sup>14)</sup>。

## 6. まとめ

boire dans un verre において dans un verre は「場所」を表している。これを疑問詞 où で尋ねるのが難しいのは、où が「位置情報」を要求しているのに対して、問題の場所補語が「配置情報」を表しているからである。関係詞 où は可能であるが、これは先行詞のおかげで「配置情報」であることが分かるからである。

飲み物の容器が個別言語によって、「場所」・「起点」・「道具」と異なる標示をされるのは、飲み物の容器の使用がさまざまな側面を有する複合的な事象であり、どの側面を選んで言語化するかが個別言語によって異なるからである。また、個別言語の内部でも、それぞれの側面がどれだけ見られるかにより、標示が異なりうる。

## 注

- 1) boire à la bouteille は一般的に「ラッパ飲み」を意味するとされているが、必ずしもそうとは限らない。例えば、杯や瓶に唇をつけずに頭をのけぞらせて飲むことを表す à la régälade という表現があるが、これを boire à la bouteille と共起させることができる。

(i) Il a bu à la bouteille à la régälade.

彼は 飲んだ に 定 ボトル

水筒や缶の場合も同じく、必ずしも唇の接触は必要ない。

(ii) Il a bu à la { gourde / canette } à la régälade.

水筒 缶

つまり、boire à la bouteille は、本来はボトルからコップなどにつがずに直接飲むことしか表していないのである。しかし、ボトルから直接飲むときは、口をつけて飲むのが普通であるために、そうでないことを明示的に言わない限り、「ラッパ飲み」と解釈されてしまうのである。また、平塚 (2006, p. 21) で指摘したとおり、限定辞も定冠詞とは限らない。

(iii) Il a bu à { cette / une } bouteille.

指示形容詞 不

なお、次の例の boire à la même bouteille は、同じボトルの飲み物を飲んだのであれば、グラスで飲んでも構わないし、また、複数のボトルでも構わない。

(iv) Karim Kazi, 34 ans, qui a mangé des chouquettes avec Demi Moore dans sa cuisine, sympathisé avec Bruce Willis, bu à la même bouteille que Mick Jagger

飲んだ に 定 同じ ボトル と ミック・ジャガー

jusqu'au bout de la nuit parisienne, [...]

まで-定 終りの 定 夜 パリの

(*Le Figaro*, 21 septembre 2004, in *LexisNexis*)

デミ・ムーアと台所でシューケット [お菓子の一種] を食べ、ブルース・ウィリスと意気投合し、ミック・ジャガーとパリの夜が明けるまで同じボトルを飲んで [...] したカリム・カジ 34 歳は [...]

- 2) このことは、英語と比較すると明確な違いとなって現れる。英語では、グラスから飲む場合、内部からの移動を表す out of が使用される。

(i) to drink out of a glass

そして、ボトルから飲む場合も、やはり、out of が使用されるのである。

(ii) to drink out of the bottle

そうすると、もし、boire dans un verre の dans が起点を表すのであれば、ボトルの場合も dans が使われてもよさそうだが実際はそうではないのである。ドイツ語も英語と同じである。

- (i) aus dem Glas trinken  
 の中から 定冠詞 グラス 飲む
- (ii) aus der Flasche trinken  
 定冠詞 ボトル

(*Brockhaus Wahrig: deutsches Wörterbuch in sechs Bänden*, Wiesbaden, Brockhaus, 1980–1984)

3) Vandeloise (1987, p. 81) は、次のような冗談をあげている。

- (i) Où est Fabiola? – Dans sa chemise.  
 どこ いる ファビオラ の中に 彼女の シャツ  
 ファビオラはどこにいるの。— シャツの中にいるよ。

Fabiola は sa chemise に包含されている。しかし、質問者は Fabiola の「位置情報」を尋ねているのに対して、答は「配置情報」しかもたしていない。よって、これは冗談になるのである。なお、Vandeloise (1987, p. 81) の préposition localisatrice と préposition configurationnelle の区別は、本稿の「位置情報」と「配置情報」の区別とは対応していない。préposition configurationnelle を用いていても、位置がどこかという情報であれば「位置情報」であるし、単にある別の要素との相対的配置を述べているだけで、位置については決定していないのであれば、「配置情報」である。

4) 平塚 (2006, p. 21) で、本稿の (11) に比べて、以下の対話は容認度の向上が見られると述べた。

- (i) Où le cheval boit-il de l'eau? –(\*) Dans le seau.  
 どこ 定 馬 飲むか 部-水 中に 定 桶  
 馬はどこで水を飲むか。— 桶で飲む。

これは、人間がコップから飲む場合とは異なり、馬が桶から飲む場合は、容器が固定されているために、「位置情報」をもたらししていると捉えやすいためであると考えられる。

5) これと同様のことは、動詞 mordre にも見られる。

- (i) Il a mordu dans une pomme.  
 彼は かじった の中に 不 りんご  
 彼はりんごをかじった。

ここでは、歯がリンゴに食い込んでいるということが dans の使用を可能にしていると考えられるが、これは「配置情報」と見なされやすいであろう。そのため、何をかじったかを聞くには、疑問詞 où はあまり適切ではない。

- (ii) (?) Où a-t-il mordu? – Dans une pomme.  
 どこ 彼はかじったか の中に 不 りんご  
 彼はどこをかじったか。— りんごをかじった。

- (iii) Dans quoi a-t-il mordu – Dans une pomme.  
 の中に 何 彼はかじったか の中に 不 りんご  
 彼は何をかじったか。— りんごをかじった。

6) 本誌の査読者より、行為全体が遂行される場所は où で尋ねられ、行為にかかわる一部分が占める場所には dans quoi で尋ねられるということではないかというコメントがあった。しかし、この仮定では次のような例を説明できない。

- (i) Où est-ce que tu as mis la clé? – Dans le tiroir.  
 どこ か 君は 置いた 定 鍵 の中に 定 引き出し  
 君は鍵をどこに置いたの。— 引き出しの中だよ。

「引き出しの中」は行為全体が遂行される場所ではなく、行為に関わる一部分が占める場所であるが、これは où で尋ねられる。よって、行為全体が遂行される場所と行為にかかわる一部分が占める場所という区別では、où が使用できるかどうかを説明できないのである。

7) (17) や (18) の前置詞句は「配置関係」を表しているとはいえ、飲食動詞の場合とは大きく違う点がある。それは、これらの場合には、「配置関係」に関わっているのは直接目的語の指示対象であるのに対して、飲食動詞の場合は、第 1 節で述べた通り、身体部位あるいはその延長としての道具が関わっている点である。このことは、飲食動詞がしばしば直接目的語無しで使用されることと関連していると思われる。

- 8) 関係詞と疑問詞は共通の形式が用いられるなどの平行性を示していることが多い。しかし、細かな相違点も見られる。これは、疑問詞が情報を要求するための語であるのに対して、関係詞には先行詞が存在していることが関わっていると考えられる。例えば、場所の疑問詞は *où* であり、時の疑問詞は *quand* であるのに対して、場所の関係詞 *où* は時の関係詞としても使われる。これは、空間ドメインから時間ドメインへのメタファーにより、もともと空間表現だったものが時間表現に使用されるようになった例だと考えられるが、この拡張は関係詞にのみ起きており、疑問詞には起きていない。この違いは、疑問詞の場合には、場所を尋ねているのか、時を尋ねているのか明確にする必要があるのに対して、関係詞の場合には、先行詞により場所か時かは分かるので、必ずしも明確にする必要がないことから来ていると考えることができる。詳しくは平塚 (1997) を参照されたい。

- 9) 平塚 (2006, p. 21) で、本稿の (11) に比べて、次の疑問文は容認度の向上が見られると述べた。

- (i) (\*) *Où est-ce qu'il a bu, dans ce verre-ci ou*  
 どこ か-彼は 飲んだ の中に こちらのグラス あるいは  
*dans ce verre-là?*  
 の中に あちらのグラス

彼はどのグラスで飲んだの。こちらのグラスなの、それとも、あちらのグラスなの。

これは、疑問詞 *où* を使いながらも、選択肢を提示することにより、「配置情報」を要求していることを明示化しているからと考えることができる。関係詞 *où* が可能になるメカニズムと類似していると言える。

- 10) ロシア語の例は、Mel'čuk (2004, p. 30) でも言及されている。

- 11) ラテン語も飲むための容器を「起点」として標示していた。初期のラテン語においては、以下の Plautus (c. 254 B.C.-184 B.C.) や Lucilius (c. 180 B.C.-c. 102 B.C.) の例のように、奪格が用いられていた。

- (i) *quibus diuitiae domi sunt,*  
 関係代名詞・与 富・主 家に ある・3 複  
*scaphio et cantharis baticis bibunt,*  
 舟型杯・奪 と 大杯・奪 銀杯・奪 飲む・3 複  
*at nos nostro Samiolo poterio*  
 しかし 我々・主 私達の・奪 サモス製の陶器の・奪 杯・奪  
 家に富のある者たちは、舟型杯や大杯や銀杯で飲むが、我々はサモス製の陶器の杯で飲む。

(Plautus, *Stichus*, 693-694)

- (ii) *uno cantharo potare*  
 一つの・奪 大杯・奪 飲む・不定詞  
 同じ大杯で飲む (Plautus, *Stichus*, 730)

- (iii) *ut senex hoc eodem poculo*  
 ように 老人・主 この・奪 同じ・奪 杯・奪  
*quo ego bibi biberet*  
 関係代名詞・奪 私・主 飲む・現在完了・1 単 飲む・接続法・未完了過去・3 単  
 私の飲んだ同じ杯で老人も飲むように (Plautus, *Casina*, 933)

- (iv) *poclo bibo eodem.*  
 杯・奪 飲む・1 単 同じ・奪  
 私が同じ杯で飲む (Lucilius, 303, Marx's edition)

ラテン語の奪格には、「起点」としての用法も、「道具」としての用法も存在するが、飲み物の容器の奪格については、Watkins (1976, p. 30) が「起点」を表すものと結論づけている。また、「起点」であることを明示的に表す前置詞 *e* を伴っている例もある。次は、Propertius (50 B.C.-c. 16 B.C.) からの例である。

- (v) *nec bibit e gemma divite nostra sitis*  
 また…ない 飲む・3 単 から 宝石 (の杯)・奪 高価な・奪 我々の・主 渇き・主  
 また我々の渇きが高価な宝石の杯から飲むこともない (Propertius, *Elegiae*, 3, 5, 4)

しかし、時代が下り、紀元後になると、Seneca (c. 4 B.C.-65 A.D.), Plinius (23 A.D.-79 A.D.), Martialis (c. 40 A.D.-c. 104 A.D.), Florus (トラヤヌス帝治下 (98 A.D.-117 A.D.) ないしハドリアヌス帝治下 (117 A.D.-138 A.D.)), *Historia Augusta* (2世紀から3世紀のことがらを扱った作品なので、それ以降のものであるが、成立年代は不明) では、飲み物の容器が、「起点」ではなく、「場所」として標示されている例が見られる。(飲み物の容器が奪格になっているが、これは起点を表しているのではなく、前置詞 in に支配された格であり、インド=ヨーロッパ祖語の所格に由来する用法である。)

- (vi) venenum in auro bibitur  
 毒・主 の中に 金(杯)・奪 飲まれる・3単  
 毒は金杯で飲まれるものだ。(「毒を盛られるのは金持ちだ」の意)  
 (Seneca, *Thyestes*, 453)
- (vii) quidam pectus eius bibendum censent  
 ある人々・主 胸・対 それ・属 飲まれるべき・対 考える・3複  
 in cerrino calice  
 の中に トルコガシの・奪 杯・奪  
 ある人々はそれ [ハゲタカ] の胸肉を [飲み物に入れて] トルコガシの杯で飲むのがよいと考えている。(Plinius, *Naturalis Historia*, 30, 92)
- (viii) primus in his Mentor, ... bibit  
 最初の・主 の中に これら・奪 メントール・主 … 飲む・3単  
 メントールが最初にこれら [古風な杯] で飲んだのだ (Martialis, *Epigrammata*, 14, 93)
- (ix) Hac licet in gemma ... bibas  
 この・奪 許されている の中に 宝石(の杯)・奪 … 飲む・接続法・2単  
 君はこの宝石の杯で飲んでもよい (Martialis, *Epigrammata*, 14, 110)
- (x) bibere in ossibus capitum  
 飲む・不定詞 の中に 骨・奪 頭・属  
 骸骨で飲む (Florus, *Epitoma*, 1, 39, 2)
- (xi) bibit in aureis semper poculis  
 飲む・現在完了・3単 の中に 金の・奪 いつも 杯・奪  
 彼はいつも金の杯で飲んでいた (*Historia Augusta*, *Gallieni Duo*, 17, 5)
- (xii) cum milites quosdam in cauco argenteo  
 時 兵士・対 ある・対 の中に 杯・奪 銀の・奪  
 expeditionis tempore bibere vidisset  
 遠征・属 時・奪 飲む・不定詞 見る・接続法・過去完了・3単  
 遠征の時にある兵士たちが銀の杯で飲んでいるのを見た時  
 (*Historia Augusta*, *Pescennius Niger*, 10, 1)
- これが、フランス語やスペイン語(本文中で後述)の語法につながっていったのではないかと考えられる。なお、これらの著者においても、従来の「起点」としての標示も見られる。
- (xiii) quam perlucido poculo bibat  
 どれほど 透明の・奪 杯・奪 飲む・接続法・現在・3単  
 彼がどれほど透明の杯で飲むか (Seneca, *Epistulae morales*, 76, 15)
- (xiv) cum vidisset puerum cava manu  
 時 見る・接続法・過去完了 少年・対 くぼんだ・奪 手・奪  
 bibentem aquam  
 飲む・現在分詞・対 水・対  
 少年が手のひらに水をすくって飲むのを見た時 (Seneca, *Epistulae morales*, 90, 14)

- (xv) priores Anthropophagos ... ossibus humanorum capitum  
 先述の・対 人食い人種・対 … 骨・奪 人間の・属 頭・属  
 bibere  
 飲む・不定詞  
 先述の人食い人種は人間の頭蓋骨で飲む (Plinius, *Naturalis Historia*, 7, 12)
- (xvi) bibis vitro  
 飲む・2単 ガラス・奪  
 君はガラスの杯で飲む (Martialis, *Epigrammata*, 1, 37)
- (xvii) Nos bibimus vitro, tu murra  
 我々・主 飲む・1複 ガラス・奪 君・主 蛍石・奪  
 我々はガラスの杯で飲み、君は蛍石の杯で飲む (Martialis, *Epigrammata*, 4, 85)
- 「起点」としての標示と「場所」としての標示に使い分けがあったかどうかは分からない。
- 12) ただし、スペイン語の場合には、ボトルにストローを差し込んで飲む場合でも、en は不自然であり、de を用いる。
- (i) Bebió de la botella con (una) pajita.  
 飲む・過去・3単 で 不定冠詞 ストロウ  
 コップの場合に en だけでなく de も可能であることも考えると、スペイン語の en はフランス語の dans に比べて使用範囲が狭く、その分、de の使用範囲が広いと言える。
- 13) 典型的な道具および典型的な場所については、山田 (2005, pp. 48-49) に規定がある。
- 14) フランス語においても、飲み物の容器の標示は一通りではない。例えば、コップで飲む場合でも、前置詞 à が使われる場合がある。
- (i) Mon bébé arrive à boire au verre.  
 私の 赤ちゃん 成功する に 飲む に-定 コップ  
 私の赤ちゃんはコップで飲むことができる。  
 これがどのような場合に可能なかはよく分かっていない。

## 参考文献

- 朝倉季雄 (2002) 『新フランス文法事典』東京、白水社。
- Cuervo, R. J. (1994) *Diccionario de construcción y régimen de la lengua castellana*, Santafé de Bogotá, Instituto Caro y Cuervo.
- Guillet, A. & C. Leclère (1992) *La structure des phrases simples en français. Constructions transitives locatives*, Genève, Droz.
- 平塚 徹 (1997) 「関係詞と疑問詞はなぜ違っているのか？」『ふらんす』72-1, 4-9.  
 ——— (2006) 「飲食動詞と場所補語」『フランス語学研究』40, 14-22.
- Mel'čuk, I. (2004) "Actants in Semantics and Syntax I: Actants in Semantics", *Linguistics* 42-1, 1-66.
- Vandeloise, C. (1987) "La préposition à et le principe d'anticipation", *Langue française* 76, 77-111.
- 山田博志 (1998a) 「場所の状況補語について—疑問詞 où との対応関係—」東京外国語大学 グループ《セメイオン》『フランス語を考える—フランス語学の諸問題II』東京、三修社、134-144.  
 ——— (1998b) 「フランス語にみる「場所」と「道具」の間」鷲尾龍一編『言語の普遍性と個性性に関する記述的・理論的総合研究』(平成7年度~平成9年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書)(筑波大学現代語・現代文化学系), 81-90.  
 ——— (2005) 「道具と場所の間」東京外国語大学 グループ《セメイオン》『フランス語を探る—フランス語学の諸問題III』東京、三修社、48-59.  
 ——— (2006) 「道具と場所の中間領域をめぐって—フランス語を中心に—」日本認知言語学会第7回大会 Conference Handbook, 96-99.
- Watkins, C. (1976) "Observations on the "Nestor's Cup" Inscription", *Harvard Studies in Classical Philology* 80, 24-40.

# Representation of Drinking Vessels

## French and Cross-Linguistic Variation

Tohru HIRATSUKA

### Abstract

In French sentences of the type “Il a bu dans un verre.”, the prepositional phrase is often considered to express the source of the movement of the liquid. Yamada (1998a, 1998b, 2005, 2006) asserts that this prepositional phrase has properties between “place” and “means”. I argued in Hiratsuka (2006) that the prepositional phrase is a locative complement. The sentence “Où boit-il du whisky ?” is not used to ask from what vessel he drinks, because the interrogative *où* is used to get information on the “location”, while the locative complement “dans un verre” gives only information on the “configuration”. To use a drinking vessel, we place the vessel and a part of our body, or a tool such as a straw, in a certain configuration, and then transfer the liquid from the vessel into our mouth. The vessel is represented as a “place”, a “source”, or a “means”, according to languages, because we are obliged to select one aspect of this complicated process of drinking from a vessel, in order to give an expression to the role played by the vessel.

**Keywords:** French, “boire”, “dans”, drinking vessel, cross-linguistic variation